

第6日

令和7年6月17日（火）

午後1時零分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、14番柴山恭子議員の質問を許可します。14番柴山恭子議員。

（14番柴山恭子君登壇）

○14番（柴山恭子君） 昼から一番、頑張ります。よろしくお願いします。

実は、私はフルマラソンもやっておりました。それで、5時間以内に走ることを目標としておりました。1日2万から3万歩歩き、休日には早朝3時ぐらいから20キロ走りながら頑張っておりましたが、フルマラソンに出たときは中からちょっとぐらい行けばいいほうで、頑張るぞと思いながらずっとやっておりましたが、この体重ですから膝を悪くし、何万歩も歩くとか、何十キロも走るちゅうことはできなくなりました。

ああ、困ったなと思いながら、しばらくは朝のテレビ体操や筋力トレーニングなどをやりましたが、何となく満足できず、さて、何をしようかなと思ったときに、B&Gで水泳を習うことにしました。高齢者ばかりの5人チームで、B&G楊貴会というのを発足しました。陽気な陽気じゃないですよ。楊貴妃の楊貴。

私たちの目標は、それぞれが1,000メートル、同じペースでクイックターンも交えながら、人に邪魔にならない泳ぎをすることです。あんまり遅いので邪魔になったりしてしまいますので、できたら邪魔にならない泳ぎをすることです。

そのうちの1人、何と初日はバタ足をする前に進まず、後ろに行きました。バタ足で後ろに進むちゃどういいうこっちゃち思いながら、じっと見ておりましたが、それから何と8か月、彼女は今バタフライ25メートルを泳ぎます。

私といえば、バタフライではなくバタ狂いですので、肩を痛めて、まだなかなか泳ぐことはできておりません。

しかし、私たちはきっと5人全員が目標に向かってバタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、クロール、そう、メドレーを泳げるようになるでしょう。

私の今回の一般質問は、教育や健康づくりについてです。目標をはっきりと示し、一步一步前に進みながら、達成感や効果が目に見えてくると、やっている本人も俄然頑張れますので、皆さんとともにどうすればいいのかを、共に考えていかなければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

（14番柴山恭子君降壇）

○議長（小島清人君） 14番柴山恭子議員。

○14番（柴山恭子君） まず、コンネアサクラについて質問をいたします。

令和6年4月22日オープンから1年を過ぎ、市役所を飛び出した移住定住交流センターは、シティプロモーション推進の拠点として、いつでも誰でも利用者がくつろぎながらゆ

ったりと過ごし、移住や空き家バンクの相談ができる。2階にはイベントスペースもあり、またマガジン「コンネアサクラ」も、いろいろなことが紹介されています。私は頑張ってるなと思っていました。

ところが、市民からは、何か知らんばってん、いつもがらんとして2人、てれっとおるが、大体ありや何しよるとやろうか、と。これ、本当にわざわざ私に電話してきて、どうしても話したいことがあるのでちゅうので、こういう話をしました。

また、土曜、日曜は閉めてあるが、いつでも誰でもが仕事が休みの日に相談できるのではないかなというように私に、あんときは2時間ぐらい話されました。

私はきれいな——何か、こうですよっち反論ができませんでしたので、アンバサダーについても話しました。また、テレビでもよう報道されよるがちゅうのも話しました。でも、私が伝えることで、彼には納得ができなかったらしいので、今回の質問にしました。

彼の言葉の中に、何のために駅前につくっちゃよるとや。なぜ、あそこには学生たちが駅から降りてくるとに、学生の1人もあそこに寄っていかんとか、と。そういうふうなことを言われましたので、今回の質問としました。

まず、コンネアサクラがオープンして1年、どのような思いで設置されたのかを尋ねます。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） どのような思いでということでございます。人口減少が進む中、地域社会の担い手不足が一層深刻になっている現状がございます。市の魅力を全国に発信をして、移住希望者のニーズにマッチした相談対応でありますとか、支援の充実に努めて、地域に根づいてもらえる人材の確保に取り組んでいく必要があると考えております。

また、駅前のシンボリックなシティプロモーションの拠点施設として、人と人をつないで、地域の人材、それから外部の発信力を活用しながら、市に共感してくれる朝倉ファンを増やして、地域の活性化を図ることを目的として設置をしたところでございます。

施設の愛称は一般公募によるものでございまして、名づけていただいたのは、市外から朝倉市に移住された子育て中の女性でございました。朝倉市に引っ越してきて本当によかった。遠くに住む子育て中の人たちに、「朝倉来んねー！いいとこよ！」と伝えたいという思いでつけたとコメントをいただいております。

本市の設置の思いも全く同じでございまして、市民の皆さんが1人でも多く、「朝倉来んねー！いいとこよ！」と言えるような郷土愛の醸成の場となり、それが移住者増につながればという思いで設置をしたところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 残念ながら、市民の皆さんにそういうことが伝わっていないのが非常に悔しいのですが、今後、そんなら、市民に伝わつたらんとなら、どうしようと思わ

れますか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 設置目的でありますけども、今後も引き続き情報発信というのに力を入れていきまして、市の認知度を向上させていきたいと考えております。

そして、本市のことを知っていただいて、町の魅力に共感をしていただく。そして、朝倉市を好きになる人を増やす。また、自分の住む町を誇りに思っって行動する市民が増える。こういった好循環を育んでいくことで、町に関わる人たちを増やして、持続可能なまちづくりを進めていきたいと思っっております。

また、移住希望者を対象としました相談会、それから市内の体験ツアー等のイベントの開催、また移住者同士、それから移住者と地域のネットワークづくりなどの交流の促進も図っていききたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴田議員。

○14番（柴山恭子君） 思いは非常に分かります。こうしたいなちゅうところらへんも分かるけれど、誰の質問やったかな、さっきのは。何か分かりやすい周知とか発信力が足らんような——誰か、飯田議員でしたね。分かりやすい発信力ちゅうか、そげなんが足らんぢやなかろうかなち。何というか、市役所を出てまで、あそこでみんなと交流を図ろうちゅうとじゃけん、もっともっと何か分かりやすい発信にしてほしいし、周知にしてほしいし、そうな設置したかいがないっちゃなかろうかなと思ったい。そんなら市役所の中にどこか、いつでも来てくださいねち、そういうふうにすればよかったので——でも、その熱い思いの中であの駅前につくったわけやろが。だけん、そこら辺の発信力ちゅうとか周知ちゅうとか、こう市役所的じゃなくて、私的に分かりやすく、ちょっとがんがん言っってみて。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） まず、ちょっと分かりにくいということですので、あそこでの事業というのも、ちょっと説明をさせていただきたいと思っっています。

コンネアサクラでは、現在、市の職員2名、それから地域おこし協力隊が1名、集落支援員1名の合計4名が勤務をしております。

業務内容につきましては、移住定住事業としまして、移住の相談とか空き家バンクの運営、お試し居住ハウスの運営、移住支援金の事務、それからシティプロモーション事業としまして、市民映像クリエイターを育てるクリエイター塾の運営でありますとか、フォトコンテストの実施、それから情報誌「コンネアサクラ」の編集、それからSNSの編集や投稿などをしていきます。

移住関連とか、シティプロモーションイベントの企画と開催、地域おこし協力隊の支援なども多岐にわたっているところでございます。移住希望者の案内とか空き家の現地確認、それからお試し居住ハウスの対応など、現場に出ることが多いのであれなんですけども、

一方で電話、それからメール、それから相談対応ほか、先ほど言いました動画とか情報誌の編集、イベントのチラシとかポスターの作成も、ほぼ職員が手づくりでしているところでございます。

このように移住定住事業、シティプロモーション事業については、しっかりと取組を進めているというところでございます。議員おっしゃるように、何もしていないと思われるのは、大変残念には思うところなんですけれども、外からは実際の活動が見えにくいというのは確かでございます。興味をお持ちであったら、気軽に足を運んでいただいて、職員にも声かけをいただければと思います。

移住のPRとか、ああいうのは市外に向けての発信がどうしてもメインになりますし、市民の目にも留まりにくいというところもございます。SNSや動画配信のデジタルツールも一見分かりにくいのかなというふうに思っておりますが、実施の状況につきましては、広報紙とかインスタグラムには掲載を現在はしているところございまして、それをきっかけにメディアにも取り上げていただいておりますし、地道に発信を続けていますので、窓口の移住に関する相談件数というのは、コンネアサクラができる前の約1.6倍というふうに実績は上げているところでございます。

議員おっしゃるとおり、確かに施設を外から見ただけだと活動が分かりにくいというのは、そう思いますが、コンネアサクラの活動内容は、今後、多様な手段で、市民の皆様にも分かりやすく情報発信に努めながら、共感の輪を広げていきたいと、丁寧な情報発信は続けていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 悔しいですね。新しくして、そして移住・定住に力を入れて頑張っているところに、住民からの理解度ちゅうか、認知力が足らんちゅうのは非常に悔しいし、こんなこっちゃいかんち私も思うけれど、私は彼が電話したときに、2回もおらん、4回目に初めて会ったけど、2時間もそれからおんなったちゅうことは、大体この人は何、仕事しよんなんとやろうかとかも思いましたが、やっぱり熱い思いはあるんだろうと思いながら、そんならやっぱ1年ぐらいで始めたばっかりやけ、認知度も足らんなら頑張っしてほしいと思って、こげんして一般質問もするちゅうのも言いましたのでさせていただきました。

彼の言う、駅前にあるっちゃけん、子どもたちの意見も自由に聞いたらどうや、子どもの1人も立ち寄っちゃらんじやないかちゅうことも言いよりましたので、学生があそこに立ち寄って何か意見を言ったり、こういう朝倉市であってほしいというようなことが言える場所なんでしょうか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 先ほど言いました、市役所を飛び出して駅前にセンターというのを設置したことで、市が積極的にシティプロモーションでありますとか、移住・

定住に取り組んでいることをたくさんの人に認識してもらえるようになってきているということは感じているところでございます。

ただ、集客を目的とした施設というものではありませんので、議員御存じのとおり、そんなに広いというわけでもございません。管理や構造上、フリースペースといったような活用はちょっと難しいかなというふうには思っているところでございますけれども、子どもたち、それから学生、そういった人たちを絡めた事業を今後あそこで展開していった、気軽に対話ができて意見を聞ける、そういった関係を築きたいと思っています。

また、そうすることで子どもたちや学生に対する朝倉市の郷土愛の醸成にもつながるものと思っているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） よろしく申し上げます。気軽に立ち寄れるちゅうことは大事。空き家にしても気軽に立ち寄って、何かあそこで話を聞いて先に進めるちゅうことも大事だと思いますので、みんなが気軽に立ち寄れる、そんな場所であってほしいと思います。

それから、もう一点言われたのは、それこそ土曜日曜の休日に開館したほうがええっちゃんないか、そういう人たちが来る場所じゃないとかえっち言われましたので、そういうところはどうか考えてありますか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 土日開館というところでございます。移住という人生の大きな選択を考える方は、事前に情報収集して、電話、それからメールでの問合せをされる方がほとんどというところでございます。そういった職員とのやり取りを事前にした上で移住相談、それからお試し居住ハウスの入居でありますとか、市内の案内について、もし相談される方が土日、それから休日や時間外、そういったのを希望される場合は、相手に合わせまして、職員も土日や休日、時間外にも対応しているところでございます。

市外から移住してきた方のお話を聞きながら、市としても移住に関する事業を今進めているところでございますけれども、そういった方のお話を聞きますと、事前に十分調べて問合せをされるということと、事前に問合せをして、土日に対応してもらえらるなら、特に不都合を感じることはないという御意見もいただいておりますので、今のところ土日に常時開ける予定はございませんが、今後もいろんな意見を聞きながら事業を進めたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） まだ始まったばかりですのであれでしょうけど、頑張ってください。そして、移住して来られた方と住民との交流も大事にしてあるようですので、あそこがそんな気軽に行けるところであれば、移住された方と、ほお、あんた、どこから来たとな、ああ、そう、ちゅうふう、地域の住民と移住者の皆さんとの交流が十分できるような場所であってほしいと思いますので、どうぞよろしく願いしときます。

次に、平塚川添遺跡公園について質問いたします。

平塚川添遺跡公園、環濠は、3月15日、雨の中、議員の皆さん、そして皆さんの声かけによって集まってくださった多くの人たちの力添えにより、蓮池あたりのしゅんせつに手をつけることができました。寒かったですね。本当にありがとうございました。

その後、土木組合の力添えにより、バックホーでの作業が行われました。その作業量はすさまじく、一すくいでも多くの土を撤去することができていました。今回、多くの皆様のボランティア活動に心より感謝申し上げます。

今後の取組についてお尋ねをいたします。蓮池はきれいになりましたでしょうか。この雨で水はたまっていますでしょうか。現在のしゅんせつと、あと除草した後の環濠の状況をお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 3月15日に実施いたしました環濠しゅんせつ及びフジバカマ、キジョランの花植え作業につきましては、雨天の中、市議会議員の皆様をはじめ、消防団員、児童生徒、コミュニティ関係者の方など、有志の方約80人に御参加いただきました。この場を借りまして、改めて感謝申し上げます。

現在、しゅんせつや水草を除去した場所につきましては、水深が深くなるとともに、透き通った良好な水質環境が維持をされております。今年はきれいなハスの花を見ることができると思いますので、SNS等を用いた宣伝を行っていきたいというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） よかったです。またどろどろのあんな環濠だったらちょっとがっかりしますが、きれいな水があそこにためられたのなら、それはよかったことでした。

私は、何でこういうことを思い立ったかといいますと、水に浮かぶ平塚川添遺跡国指定30周年記念シンポジウムで、文化財・環境情報発信基地としての遺跡公園のシンポジウムが令和6年5月18日に行われましたが、その折にこの遺跡公園に関わられた多くの皆様の思い出に触れることができました。

そして、そのとき、私たち住民の力でやれることがあればやってみようと思い立ったのが初めです。そして、このボランティア活動となりました。

お尋ねいたします。今回のしゅんせつの——貯水機能を回復させるためのしゅんせつ等以外の今後の計画はどうなっておりますでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 貯水機能の低下には複合的な要因があると思われます。主な要因といたしましては、公園整備時に施工しました防水シートの劣化、また植物の繁茂、土砂の堆積などが考えられます。

貯水機能の回復に効果的なのは、やはりしゅんせつであるというふうに考えております

ので、しゅんせつと並行しまして、ガマや水草の除去を進めていく予定でございます。以上です。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 今回のボランティアで分かったのは、人力だけではどうしようもないということでした。スコップいっぱい、あの土を上げるのに非常に労力が要りましたし、上げた土を一輪車——またあの一輪車がパンクしちゃったちゅうのも大きな原因でしたが、一輪車に積んだ土をどこに運ぶかちゅうのも、これはもう大体私は何しよるとやろうかちゅうごと、仕事が前には進みませんでした。さっきの話を聞いて、水がきれいになったちゅうのをよかったと思います。

そして、その次、バックホーの土木組合のボランティアの作業を見に行っただんですが、それはすごかった。バックホーを運転するドライバーの技術力も大したものでしょうが、上を薄っすらと剥ぎながら、一すくいでも私たちの何時間分をやったような気がいたします。

ちゅうことはですよ、予算をかけにやいかんでしょう。何か人力だけでやっても、ありや元には戻らん。やっぱり予算をかけて、そして機械を使って、ダンプを使ってあの工事をやることで、最初の水に浮かぶ平塚川添遺跡となると思っております。

ただし、あのとき思ったのは、バックホーでやっても、橋のほうとかは取り切れん。また、草のところとか橋の下のところは機械が入っていかない。そういうところはやはり人の力が要りますので、地域の力を借り、住民の力を借り、かつ市で予算を組みながら、あそこを元の水に浮かぶ平塚川添公園にすることが私の大きな望みであります。いかなるものでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 議員言われますとおり、人力のみでのしゅんせつにつきましては大変厳しいということは認識しております。機械による作業が難しい環濠の隅など人力が適している場所もありますことから、今後もしゅんせつのイベント化を進めまして、さらに多くの方と一緒に環濠浄化を行っていきたいというふうに考えております。

また、バックホー等の重機を用いたしゅんせつにつきましては、現地の状況や作業の効率化から見ますと、環濠に影響がない範囲におきまして、必要性を十分感じておりますので、今後、予算措置も含め検討していきたいというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そこで、あそこがだんだんときれいになっていく。したら、その後どげな活動をしたいと思えるのですかね。私の思いは山ほどあるんだけど。役所として、教育委員会として、どんな活動をしたいと思っておりますでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） まず、平塚川添遺跡公園の入園者の状況について説明をさせていただきます。

コロナ禍の令和3年度には1万4,000人と底打ちした入園者数でありましたが、令和4年度に公益財団法人B&G財団が募集しましたアナビバコンテスト、これはお薦めする遊び場、学び場、たまり場をInstagramからPRするコンテストでございますが、遺跡公園の竪穴住居前で撮影されました、「なりきり弥生人の仮装写真」が2位に相当する優秀賞を受賞されました。

これらのことなどによりまして、遺跡公園が広くPRされまして、令和6年度の入園者数は、コロナ禍前の令和元年度と比較いたしまして、約5,000人増の2万2,000人となっている状況です。年々入園者数が増えているといった状況でございます。

特に近年の傾向といたしましては、福岡市近郊や北九州市方面からのファミリー層が休日に1日滞在しまして、勾玉づくりや火おこし、土器・埴輪づくりなどゆっくり体験する内容が人気となっております。

今後は、平塚川添遺跡公園でしかできない、これらオンリーワンの体験活動をさらに磨いていきたいというふうに思っております。

また、今年度から昨年7月に文化庁から認定されました朝倉市文化財保存活用地域計画、これを基に計画をしております平塚川添遺跡公園を起点とした、市内文化財を巡るバスハイク、それらや公園内で栽培した藍やアカネ等を使った草木染めの体験講座等も予定しているところでございます。

さらには、議員から御提案があったチョウの一種であるアサギマダラの飛来を狙った活動におきましては、フジバカマやキジョラン等の植栽も始めておりまして、遺跡公園の自然豊かな心休まる環境を生かしまして、花や野草を観賞したり、チョウ、トンボといった昆虫や野鳥の観察など、四季折々に楽しめるコンテンツで、新たな魅力創出に努めていきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 私たちがあそこにしゅんせつに行ったときには、たしかピザをつくっていましたが、子どもたちは。ペットボトルの中に何か入れて、シャカシャカってしながら、しばらくするとペットボトルから小麦粉がぽおんち飛び出して、その上にいろんなものを焼いてつくるような。ああ、ここはこんなふうにいろいろなことがあっているんだと思いながら、思っていました。

それで、今いろんなことを話されましたが、私はあのとき、私たちは蓮池の掃除をしましたので、ああ、ここはハスの花がこんなに咲くんだ、そのときえらい思ったとです。

ほんで、何かいろんなことを、子どもたちがあそこに来ているいろんなことをするのもいい。自然を体験するのもいい。そして、あの、あるものをもっと活用できるような取組については考えてありますか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 平塚川添遺跡公園は素晴らしい公園だと思っておりますので、

その自然豊かな地理的状況を生かした、いろんな遊びなり、そういった学習なりができるようなことを今後も検討していきたいというふうに思います。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） お願いがございます。ハスは取っちゃならんもんでしょうか。あげんいっぱい咲いちよるハス、それからもっと困りもののガマの穂。昔、私たちが若い頃、お花を習いに行きよるときは、あのガマの穂は花の材料でした。もしかしたら市民の中には、あのガマの穂が欲しいとか——私はあげんハスの実があるっちゃけん、あそこにはハスの花は大概咲いちょっとじゃろうなち、ちょっと思ってしまったんですが、ハスの花とか、それからチョウチョウ観賞とかいろいろとありますが、もしかしたらそげなんを取るの駄目ですか。どうせ枯れてなくなるもの、だって邪魔物なんですから、ガマやは。どうです。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） すみません。検討させてください。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 十分検討してください。枯れてしまった実とか葉っぱとかは、結局環濠の邪魔になると思いますので、市民たちが喜んで花を持って帰ってくれば喜びもしますし、あそこに足を運ぶ回数も多くなると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

次に、立石小学校遊具についてのお尋ねをいたします。

これが立石小学校の中庭の遊具の前の状況です。これです。今は何にもなくなる。写真を持ってくりやよかった。今は、あれは真砂土やろうか。真砂土が広げてあります。ざあっと広げてありました。そして、端のほうは草がぼんぼん生えておりました。

大体遊具は要らんですかね。遊具はどげんかしようちゅう思いはないんですかね。遊具をどげんかしようという思い。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 遊具についてですけれども、子どもたちが遊具を使うことで、遊びを工夫したり、友達との関わりを高めたり、また運動の楽しさや喜びを感じながら、体力をつけるためにも、学校の遊具については必要なものだというふうに認識はしております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） いつ頃設置されますか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 遊具につきましては、昨年、令和6年の12月議会で議員から御指摘をいただきました後、再度中庭のほうを確認いたしまして、学校の考え等も聞きながら、これまでに複数回、継続して協議を行っているような段階でございます。再設置に

については、早い段階に結論を出していきたいと、そう思っております。以上です。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） その早い段階の結論が聞きたい。いつ頃までに方針を決めたいと思ひよるとか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 今の段階で申し上げますと、来年度の予算に間に合うように方針を決定したいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 内容は。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 今の考えですけれども、ジャングルジムやシーソー等を設置できればなということを考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 七百何十人やったかな、800人近い子どもたちがおりますので、上級生は運動場の向こうのほうを使いますし、下級生は中庭のものを使いますので、やはりジャングルジムやシーソーとかブランコとか滑り台とかというのが、昔は鉄棒とか……何があったかな。ああそう、ウサギ小屋もあったし、鳥小屋も、いろんなものがあったような気がします、何せ狭くなっておりますので、多くのものは設置できないとは思いますが、できるだけ早く結論を出して、設置していただきたいと思いますが。はい、ちゅうて。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 検討してまいります。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 教育について質問いたします。

立石コミュニティでは、子どもたちに図書館を開放しておりました。子どもたちは熱心に本を読んだり勉強をしたり。あのコミュニティにシルバー人材センターの方が来てもらうようになってからは、5時半以降も多くの人たちが利用できて、非常に活発なコミュニティだと思っております。そんな中、子どもたちは非常に図書館を利用するのを喜んでおりましたし、コミュニティ自体も子どもたちとの交流も楽しんでおりました。

ところが、この頃、職員が退職後——職員はやかましく怒るので、あんまりそういうことはなかったのですが、シルバーの皆さんはそんなにやかましく怒れないんですよ。ないし、そんな権限も自分たちはないだろうと思ってありますので、やりたい放題。ごみのぽい捨てをしたり、本の間にゴミを押し込んだり、本にあめのべたべたをつけたり。それを、こんなことを俺たちができるんだよとSNSに上げてしたりする。これが看過できないほどになり、その後5時半以降は開放しないということになりました。

子どもたちは、あそこを利用したいちゅう子どもたちは、非常に残念だと思っていると

と思いますが、コミュニティの方針と区会長会の話合いの中で、今回は仕方がないだろう、こういうことにしようというになりました。非常に残念だなと思っています。

私はプールにはほぼ毎日のように行きますが、そこで立石小学校4年生の子どもが下手なんです、泳ぎが。とにかく手も足もばたばたする。息も絶え絶えで。それでも250、必死で泳いだ。それをじっと見ていて、帰りに、あんた、すごいね。おばちゃんもあんた見よったら、頑張る元気が出てきたわと彼に言ったら、彼はにこっち笑って、さようならと挨拶をしていきました。

あまりの違いに、大体教育とはどういうことをすればこういう子どもが育ち、こういう子どもが育つのだろうかとちょっと不思議になりましたので、教育とは大体何なのかをお尋ねします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 教育とは何でしょうかというような質問だと思います。教育については様々な捉え方、考え方がございます。一つの例といたしまして、教育は教える育て、知識や技術を授けること、人を導いて善良な市民にすることなどでございまして、それによって子どもたちの自己実現につなぐ活動であると言われております。

そのためには知識や技能の獲得だけではなく、非認知的能力と言われます子どもの遊ぶ意欲や向上心、チャレンジ精神、勤勉性や逆境に立ち向かう心、他者を大切に思う心、他者のために役に立ちたいと思う心などを併せて育成することが重要だと考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それを教育の力で何とかしようと思っているんですね。私は朝倉東高校なんです、そのときの恩師が今90歳。彼は北野町とかいろんなところで百人一首の講座を2時間ぶっ続けで、立ち通しでやっております。その先生に、もし日本が戦争になったら、日本の若い人たちは戦争には行きませんよねと質問をしてみました。すると彼はこう言いました。そんなことはない。軍国主義に戻るのには1年もかからない、と。教育とはそれほどすごいものだと言いました。

部長がおっしゃる、いろいろな子どもたちを育てるための教育に、どれほど力を注いであっているのかを私は知りたかった。

私たちが中学の時代と今では非常に変わりましたが、昔、中学生になるとクラブ活動に入らなければ素行が悪くなって、言い方が悪いけど、不良になるとかも言われておりました。だから、クラブ活動に入るのは必須やったような気がします。

それで、甘中大行進というものもありまして、甘中大行進はあの当時、甘木中学校は約500、600人近い、一学年おりましたので、1,500人の生徒が一丸となって大行進をするような、たしかお昼御飯後、すぐに甘中大行進というのはあっていたような気がします、そんな行進でした。

今運動会を観に行きますと、団体競技は影を潜め、まるで子どもの小さな陸上大会のよ

うでした。お昼のお弁当は、私たちにとっては大きなイベントで、母たちは前の日ぐらいから準備をして、おいしいお昼をたくさん作って持ってきて、じいちゃん、ばあちゃんたちもその中に交じりながら、たった1時間弱の時間を楽しく過ごしたのを覚えております。子どもにどうやった、一番じゃった、何番じゃった、あそこは何じゃったといろいろ話しながら、お昼のお弁当を食べておりました。

今回観に行きますと、テントも建てず、午前中で終わり。何でこげなふうに計画されたのかな、これが国の方針かな。コロナ以降、人と人のつながりが敬遠され、家族や友人とも距離を置く、個人を大事にする方針となったのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 運動会や体育祭は、体育活動中の熱中症予防等から、全国的に実施時間や内容の見直しが行われております。これには一長一短あるかと思いますが、朝倉市におきましても、各学校の判断によりまして、開催時期を5月に変更し、練習時間を削減し、当日は午前中のみの実施となっている状況でございます。

また、個人を大事にすることが方針になったのかということにつきましては、それぞれの個性を尊重することはすごく大事なことでと思いますけれども、他者との協働活動によりまして協調性を育むことも、非常に大切なことであると考えております。

そういった中で運動会や体育祭のほかにも、集団の絆や協力する心を養うために、学級対抗のクラスマッチや文化祭、キャンプ等の体験活動の充実に努めているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それなのに、なぜこんなふうになってしまっているのでしょうか。非常に考え方——昔は言いましたよ。甘中が悪けりゃ、次は十文字中が悪うなる。十文字中の次は比良松中になるち。いろいろなことを言っていましたが、そうではないと思うんです。

朝倉市に住む子どもたちが健全に育つことは非常に大事なことで、だって教育何とかにも書いてありましたよ。ふるさと朝倉を愛し、社会に貢献できる子どもの育成と学校教育目標が掲げてあったんです。そういうことをやりますと。でも、結果的に、そういうことにはなっていないような気がしますので、大体、そんなら、大きく言うことは聞きました、今まで。でも、実際にこういうことから子どもたちにやっていきましょうちゅうのが、私には理解できんとですよ。

私は米沢に行ったりしましたので、米沢の体育館に掲げてある額とかで、米沢の興譲館精神の中に、「母はわが子のために悲しむ。母あり、子あり、母は子の心を心とし、子は母の心を心とする」というようなことが書いてあるんです。

それで何か、もっと身近なこと、例えば、あれは誰先生だったかな。僕は勉強も大事だとは思いますが、子どもたちがきちっと靴をそろえて玄関を上がり、そして礼をして元氣

に挨拶をできるような、そんな子どもを育てたいと思うと言われた先生がありましたが、もっと具体的に、もっと簡単に、教育とはあっていいものだと思うんですよ。大きく教育を捉えずに、もっと何か分かりやすい——ちゅうことは実践できること、分かりやすいことはどう考えてあるか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） まず、昨年度の夏ぐらいから、特定の校区のお子さんがファストフード店とかコミュニティセンターにおいて、迷惑行為を行っていることを聞いております。まずもって、おわびを申し上げたいと思っております。

当該のコミュニティセンターにおかれましては、小中学生の使用時間を制限するなど、大変御迷惑をおかけしております。特にコミュニティとかは、地域の学校のために今までたくさん御尽力いただいておりますところに関して、それに対してのそういった行為があることに對して、大変憤慨をされているんじゃないかというように感じているところでございます。

当該の学校におきましては、校内においても授業であるとか学校行事、部活動を通して非認知能力——よく言われますけども——を育成しているところでございますが、その学校の多くのお子さんや保護者の方には理解をしていただいていることと認識をしているところでございます。

コロナ禍以降、議員が言われますように、様々な学校行事が合理化をされたという言葉を使わせていただきますけども、それによって粘り強さであるとか耐性を身につける場面が減ってきているのではないかという御意見をいただきました。それも一理あるのかなと考えておるところでございます。

今後は、議員が以前から申されました、何か一言で分かりやすい教育をというふうになんと言っていたら、朝倉市の教育委員会といたしましても、令和の教育十訓というのを令和4年度からつくって、各学校には周知をしているところでございますが、なかなかそういったところがまだまだ不十分で、周知ができていないところもありますし、もう一つは、議員が言われますように、焦点化したものを今後また考えていきたいなと考えているところでございまして、耐性であるとか協調性、そういった学力以外を支える部分についても、今後さらに力を入れていきたいというふうを考えておりますので、どうぞ御理解のほど、よろしくお願いしたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） お願いします。朝倉市の子どもはちょっと違うねと言われるほどの教育であってほしいし、それは飛び抜けたものでなくていい。日頃の暮らしの中が穏やかで、そしてお母さん方も妙に怒らず、何でお母さん方があんなふうに通学に對してもがんがん言うてくるのはよく分からないけれど、お母さん方の心の安定もなくなるとるのだらうと思いますので、教育とは本当に力があることだと思いますので、今後とも

どうか教育には力を入れてほしいと思いますので、よろしくお願いいたします。市長、教育には力を入れてください。よろしくお願いいたします。

健康づくりについてお尋ねをいたします。

私は、健康づくり先進地、ひさやま方式の健康管理法について調べました。ひさやま方式は、三大疾病や認知症などの原因となり得る生活習慣病の原因を、健診の追跡調査や剖検のデータなどを基に明らかにして、町民に還元するという、久山独自の健康管理法です。

ひさやま元気予報とは、健診データ、問診結果等から将来の生活習慣病の発症リスクを予測するとともに、生活習慣や検査値が変更した場合の発症リスクなど、どう変化するかをシミュレーションすることができるそうです。これは例えば5年後にはどうなっとなる、10年後にはどうなっとなる、15年後にはどうなっとなるというようなデータを個人に向けて発信するそうです。

今回の質問は、住民から出たものでした。自分は会社に勤めているときは、年2回ほど風邪を引いていたが、退職後、甘木公園まで散歩するようになって風邪を引かなくなった。そして、その子が、朝倉市では高齢者の健康づくりの取組、例えばステップ運動、スロージョギング、いきいき健康クラブ、サロン、筋力トレーニングなどが行われているようだが、これらについてのデータやその後の計画はどうなっているのかと尋ねられましたので、質問をいたします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 市では、令和6年に策定しました第3次朝倉市健康増進計画に基づきまして、健康寿命の延伸を目標とした健康づくり事業を行っております。

計画では、個人の行動と健康状態の改善、健康づくりを支える環境整備、ライフステージに応じた健康づくりを柱とし、5つの分野別に目標を設定して事業を行っております。

健康づくりを支える環境整備の分野におきましては、市民とともに行う健康づくりとして、各コミュニティから推薦された健康づくり推進員への健康教育、ステップリーダー養成、食生活改善推進員養成などを市が行いまして、推進員やステップリーダーに各地域での生活習慣の改善や体力づくりの活動等を行っていただいております。

また、大学と連携した市民の健康づくりとしまして、包括的な連携協定を締結しました久留米大学から講師の方を派遣していただき、令和6年度の健康づくり推進員研修会、ステップリーダー研修会、運動指導講座等で講話を行っていただきました。

ほかにも市が開催しておりますステップ&スロージョギング大会では、福岡大学の教授にも講演をいただいているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 健康づくりの取組とその成果についての検証なんですけれども、各地区で行っているステップ運動教室では、毎年参加者の体力測定を実施しております、運動の成果を参加者とともに検証しております。参加者個人の経年の変化をグ

ラフ化して、前年度の測定値と比較ができるようにしております。

また、先ほど申しました久留米大学と連携した運動指導講座におきましては、5回の講座を開催しまして、講座の初回と最終回に体組成や体力の測定を行い、その結果、個人差はありますが、全体としてはよい傾向にあったという実績報告を受けております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） いいと思いますよ。いいと思う。だけれど、私が聞きたいのは、それをどう生かそうとしているのか、健康づくりに。ちゅうのを聞きたかった。彼が聞きたかったとは、そういうことなんです。いろいろなことが行われよるけれど、だったら——久山のようにはいかないと思います。あそこは九大と連携しながら、久山の人たちに言わせれば、私たちの体は全員、解剖されるっちゃんねちゅうぐらいの中でありますので、それは久山と比較するほうが無理だとは思いますが、住民の意見としては、あれほど、さっき体力測定は去年から比べると今年のほうが大分よくなったとか、そういうことはしてあると言いましたので、それを例えば5年、10年、15年、20年続けて、結果的には老化のペースが遅くなっておりますので、このまま頑張ってくださいというような資料とか、私たちが水泳に行って、これができるようになりたいと思って頑張れるのは、目標があるからなんです。

だから、体力測定、何があったかな、反復横跳びとか、それからぴよんぴよんぴよんって飛び越して走るのとか、片足立ちとか、いろんな体力測定がありましたよね。私も1回だけ受けましたが、そういうことをこう連続しながら、市民の健康づくりに生かしていただきたい。

彼が言わんとするところは、そのあたりだったと思うんです。大体あげん一生懸命しよんなるごとあるけれど、それがどげん役に立ちよるとや、ちゅうような、そこら辺を、でも今の、去年の体力測定と今年の体力測定を比べたら、高齢化やけん、どんどん反復横跳びが30回しよったとが35回にはならん。30回しよったとが29回になるかもしれんけど、これはすばらしい成果ですよ、あと何年も頑張ってくださいよというような、住民に対して何か贈るとか、そういうふうなことができれば、例えばあとどういう健康のあれがありますか。健診もあるよね。健診の折の報告やらも交えて、こういうふうな運動をしてありますので、随分健診結果はよくなっておりますよと、逆に。やっぱこのままじゃちょっと危ないですよとかいうような意見を住民に対して出してほしいと思うんですが。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 議員がおっしゃられますように、久山ほどの、今後の体の状況とか、そういうのが予測できるほどのものではございませんが、朝倉市の国民健康保険の医療費分析をしている中では、生活習慣病の発症予防や重症化の予防に有効である、健診を受けている方と受けていらっしやらない方では、1月当たりの生活習慣病の治療費

を比較すると、約4.5倍、受けてない方のほうが高いという状況があります。

ですので、医療費抑制のためには特定健診を受けていただきまして、生活習慣病の発症、重症化予防をしていくことが重要であると考えております。

市民一人一人が自分の体の状態を把握し、管理していくことができるように、今後も受診しやすい健診の環境整備やその後の保健指導、生活習慣の改善につながるような食生活や運動の健康教育等を行ってまいりたいと考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） お願いします。健診は受けるのですが、私に言わせれば健康診断を受けるのですが、ちょっと1週間前か1か月前ぐらいに摂生しちよって受けてみよう。したら健康診断結果がようになるとではないかなと思って、終わったらすぐまたお菓子を食べてしまう私ですが、そういうことがなくて、運動とかいろいろしながら……

○議長（小島清人君） 14番柴山恭子議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後2時10分に再開いたします。

午後2時零分休憩